

ジルカット ダイヤモンドバーとジルカット ポリッシャーによる効率的な形態修正と研磨について

KerrTM



吉田歯科医院
(大阪府)

吉田 健二 先生

これまでジルコニア修復物の形態修正では研削効率を考えファイン(F)のダイヤモンドバーを使用してきた。しかし、マージン付近の調整を行う際にチッピングが生じ、再製するといった苦い経験もあったため、マージン付近ではエクストラファイン(以下、FF)のダイヤモンドバーを使用してきた。ただし、FFバーの使用には次のようなジレンマが付きまとう。FFバーは研削力が弱いので高回転で使いたい、回転数を上げると摩擦熱によりダイヤモンド粒子が剥離してしまう。また、摩擦熱を抑えるための注水下での使用はマージンの視認性が悪くなってしまう。このような点からFFバーではどうしても時間がかかってしまい、効率が悪いと感じていた。

ジルコニア修復物の形態修正にKerrジルカット ダイヤモンドバーを使用することはこれまで臨床で感じていた上記のような煩わしさを解消し、素早く適切な

形態を付与するために非常に有効である。ジルカット ダイヤモンドバーはマージン付近でもチッピングしにくい程よい粗さで均一な大きさのダイヤモンド粒子を持つ。そのため、大きく削除するために高速回転で使用する際、無注水下でも発熱しにくくダイヤモンド粒子が剥離した経験はまだない。また、面を綺麗に整える際には低速回転で使用するが、短時間で思い通りの形態を付与できる十分な研削力を備えている。

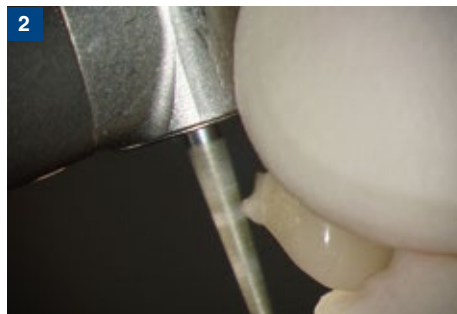
研磨の際にはジルカット ポリッシャーのプレポリッシングの使用により、形態修正による研削条痕がストレスなく消えることには感動すら覚えた。これもジルカット ダイヤモンドバーのダイヤモンド粒子が均一で、研削条痕の深さが均一となっているためと考えられる。もちろん、ジルカット ポリッシャー自体が2ステップで高い研磨能力を持つ優秀な研磨システムであることは言うまでもない。

このジルカット ダイヤモンドバーとジルカット ポリッシャーを組み合わせることで、口腔内に望ましい研磨面を得るまでのケアタイムを短縮することができる。私にとってこの組み合わせは、もはや臨床で手放せない効率的なアイテムとなっている。

使用例



1 #12に仮着してあるPFZ(Porcelain Fused Zirconia)。口蓋側遠心に除去するためのリムーバブルノブが付与されている。



2 ジルカット ダイヤモンドバーを無注水で使用し、リムーバブルノブを削除。マージンから理想的な豊隆を付与していく。



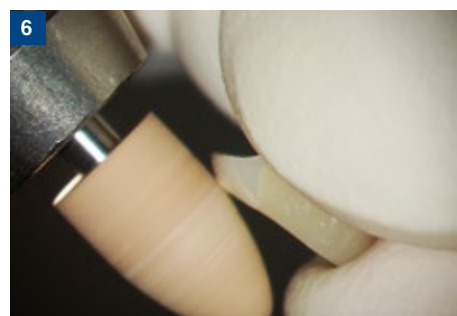
3 形態修正が完了したジルコニア表面。ジルカット ダイヤモンドバーによる研削条痕を認める。



4 ジルカットポリッシャーのプレポリッシングを使用し中研磨を行う。



5 中研磨の完了。短時間で切削条痕は消え、殆どきれいな研磨面が得られている。



6 ジルカット ポリッシャーのハイシャインを使用し、仕上げ研磨を行う。



7 仕上げ研磨の完了。滑沢な研磨面を認める。



8 口腔内にセットしたクラウン。適切な形態と研磨面が得られている。

ジルカット ダイヤモンドバー・ジルカット ポリッシャー/ジルコニア用研磨システム



製品情報はこちら
<https://bit.ly/3H9snHX>

一般医療機器 歯科用ダイヤモンドバー 医療機器製造販売届出番号: 27B1X00149111800
 一般医療機器 歯科用ゴム製研磨材 医療機器製造販売届出番号: 27B1X00149111900

ご注文は、お取り引き歯科ディーラー様までお願いいたします。



Webサイト



Envista エンビスタジャパン株式会社

〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー

TEL:0800-111-8600 FAX:03-6866-7273

www.envistaco.jp

KKSAJB2302V1 KR-0267